

主 題：神のみこころを知り従う

聖書箇所：使徒の働き 5章32節

祭司長や長老、律法学者たちの前で使徒たちは大胆に証をしました。前回見たように、イエス・キリストはよみがえられたということ大胆に宣言したのです。この使徒たちはイエスがよみがえったという事実、そして、そのイエスが天に上げられたという事実、そして、聖霊が送られたという、この事実を見ると、まさにイエス・キリストはまことの神であり、そして、人に与えられた唯一まことの救い主であるということ公にしたのです。そのような神によって私たちは救われたのです。この救い主によって私たちは罪赦されて、今こうして主を礼拝する者へと変えられたのです。私たちがこの神に対して為すべきことはないのでしょうか？責任はないのでしょうか？先ほど子どもたちがさんびした中にこのような歌詞がありました。「私はあなたに何をもって感謝を現わせばいいのだろうか？」と。神はすばらしいわざを為してくださった、地獄に行くのがふさわしい私たちをそこから救い出してくださった、永遠のいのちを与えてくださった、罪の赦しを与えてくださった、これは神が私たちのためにしてくださったことです。そして、私たちの頑なな心を開いてくださって、罪深さを教えてくださり、真理を示してくださり、そして、何とその救いにまで神は私たちを導いてくださった、だから、私たちは救いは神の恵みだと言って神を称えるのです。この神に対して私たちは何か責任を負っていないのでしょうか？どのようにあなたはその救いの感謝を現わすのですか？

今日私たちが見て行くテキストは、その感謝を正しく現わした信仰の先輩たちの姿を私たちに教えてくれるのです。そして、彼らの生き様が私たちにもこのように歩んで行くようにと教えてくれるのです。救われた者として、神の恵みを感謝する者として、どのように私たちはその感謝を現わして行くのでしょうか？どのように生きて行くのでしょうか？そのことをこの箇所は私たちに教えてくれるのです。

使徒5：30-32

:30 私たちの先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスを、よみがえらせたのです。

:31 そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げられました。

:32 私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」

特に今日は32節のみことばを見て行きます。「私たちはそのことの証人です。」と使徒たちは議会において祭司長や長老、律法学者たちに告げました。彼らのこの証言が、私たちが神の前に正しく生きる人生を送って行くために必要な、重要な二つのことを教えてくれています。このように彼らは生き行きました。そして、今の私たちにも、このようにあなたが生きて行くならあなたの人生は決して無駄にはならない、このように生きてあなたは救われた感謝を現わすようにと教えているのです。私たちキリスト者がキリスト者としてふさわしい人生を送るために、神に喜ばれる生き方を私たちが為して行くために、大切な二つのことを見て行きましょう。

☆私たちが悔いのない歩みをするために、使徒たちと同じように神に喜ばれる歩みをして行くために。

1. 自分自身の責任をしっかりと知る

使徒たちは「私たちはそのことの証人です。」と言いました。つまり、使徒たちは自分の責任というものをしっかりと知っていたのです。彼らは「私はキリストを証する」という大切な責任を神からいただいたのだということを確認していました。なぜなら、救われた者はキリストの証人なのです。キリストを証する者です。だから、彼らはそのように言ったのです。

(1) クリスチャンに与えられている責任とは？

イエス・キリストを信じているあなたはキリストの証人であるということを知っておられましたか？そのことはみことばを通して神が繰り返し私たちに教えてくれることです。たとえばイエスは使徒1：8で「**しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。**」と、もちろん第1義的にこれは使徒たちに対して語られたことですが、これは彼らにだけ言われたことではないことは他のみことばからも明らかです。ルカの福音書8：26-39には、イエスがガリラヤ湖の東側、ゲラサ人の地方に行かれたときのことが書かれています。「**こうして彼らは、ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方に着いた。：27 イエスが陸に上がられると、この町の者で悪霊につかれている男がイエスに出会った。彼は、長い間着物も着けず、家には住まないで、墓場に住んでいた。：28 彼はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高き神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いします。どうか私を苦しめないでく**

ださい。」:29 それは、イエスが、汚れた霊に、この人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕えたので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。:30 イエスが、「何という名か。」とお尋ねになると、「レギオンです。」と答えた。悪霊が大ぜい彼にはいていたからである。:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行け、とはお命じになりませんようにと願った。:32 ちょうど、山のそのあたりに、おびただし豚の群れが飼ってあったので、悪霊どもは、その豚にはいることを許してくださいと願った。イエスはそれを許された。:33 悪霊どもは、その人から出て、豚にはいった。すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って湖にはいり、おぼれ死んだ。:34 飼っていた者たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や村々でこの事を告げ知らせた。:35 人々が、この出来事を見に来て、イエスのそばに来たところ、イエスの足もとに、悪霊の去った男が着物を着て、正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。:36 目撃者たちは、悪霊につかれていた人の救われた次第を、その人々に知らせた。:37 ゲラサ地方の民衆はみな、すっかりおびえてしまい、イエスに自分たちのところから離れていただきたいと願った。そこで、イエスは舟に乗って帰られた。:38 そのとき、悪霊を追い出された人が、お供をしたいとしきりに願ったが、イエスはこう言って彼を帰された。:39 「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」そこで彼は出て行って、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。」。イエスは男に「神があなたにどんなに大きなことをしてくださったかを、話して聞かせなさい。」と言われました。今あなたが経験したことを周りの人々に話してあげなさいと、彼は証人なのです。それで彼は「イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。」のです。この男はイエスから「自分に神が為してくださった大きなみわざを人々に伝える、それがあなたの責任だ」と言われたのです。そして、彼はそれを果たしたのです。ですから、イエスは使徒たちにも、そうでない人々にも、同じようにクリスチャンであるあなたは証人とされたということを明らかに話しておられるのです。私たちは今、使徒5：32に使徒たちの証を見えています。彼ら自身も証言します、「**私たちはそのことの証人です。**」と。

パウロに対してもこのような約束が与えられました。使徒22章でパウロ自身が証していることですが、パウロがダマスコに向かう途中、まばゆい光が彼を照らしました。それで彼は目が見えなくなった、そして、その後彼はダマスコへ行きます。すると一人の敬虔なアナニヤという人がやって来ます。そして、彼によってパウロは目が見えるようになるのです。そのアナニヤがパウロに対してこのようなことを言います。「:14『私たちの先祖の神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口から御声を聞かせようとお定めになったのです。:15 あなたはその方のために、すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですから。』(使徒22：14-15)と。パウロは証人となったのです。ですから、みことばを見るとき救われた私たちクリスチャンは、神の証人であることをしっかり覚えるのです。旧約の時代、イスラエルは神の証人でした。神がイスラエルを選ばれたのは、イスラエルだけを愛して異邦人を憎まれたのではなくて、イスラエルを通して神がどんなにすばらしいお方であるかを明らかにするためでした。イザヤ43章でこのように教えています。43：10「**あなたがたはわたしの証人、——主の御告げ。——わたしが選んだわたしのしもべである。**」。また、44：8には「**恐れるな、おののくな。わたしが、もう古くからあなたに聞かせ、告げてきたではないか。あなたがたはわたしの証人。わたしのほかに神があろうか。ほかに岩はない。わたしは知らない。**」とあります。旧約の時代にイスラエルにはこのように大切な務めが与えられたのです。そして、新約の今の私たちの時代には、イエスを信じる者を神は証人としてくださったのです。だから、私たちがまず覚えなければいけないことは、私たちクリスチャンはキリストの証人であるということです。みことばは私たちにこのように教えています。

(2) 証人として何を語るのか?

何を語るのかをはっきり知っておかなければなりません。なぜなら、キリストの証人が語るべきメッセージを語らずにそれ以外のメッセージを語っていることが多いからです。私たちキリストの証人は、私たちの考えや私たちの思いを語るために証人とされたのではありません。語るべきメッセージがあるのです。では、どのようなメッセージを語るべきなのでしょう?みことばは私たちに教えてくれます。それはキリストの十字架と復活です。ルカの福音書24章を見ましょう。二人の弟子がエルサレムからエマオという所に向かっていた。イエスはその二人と同行されたのです。彼らは初めこの人がイエスだとは気付かなかった、話をして家に入って食事をしたそのときやっと彼らはその人がイエスだと気付いたのです。するとイエスは見えなくなりました。そこで二人の弟子たちはこのすばらしい事実を知らせようと、11使徒が集まっている所に行き、そこで彼らは自分たちが経験したことを告げるのです。そうしている所にイエスが現われたというのがその箇所に記されています。そして、イエスはそこで食事をされ、その後でこのように話されました。24：45-48「**そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。:48 あなたがたは、これらのことの証人です。」**と、私たちが何を語るべきかはみ

ことばが明確に教えています。「**キリストは苦しみを受け**」、十字架にかかったこと、「**三日目に死人の中からよみがえり**」、キリストの復活です。そして、このイエス・キリストによって私たちのすべての罪が完全に永遠に赦されること、この方だけが救い主であること、このメッセージを伝えるのです。そして私たちは人々に、自らの罪を悔い改めてこの神が備えられた唯一の救い主を信じるようにと語るのです。それがイエスが弟子たちに、そして私たちに教えられたことです。これが私たちのメッセージです。

同時に、使徒の働きを見て行くと、使徒たちはイエス・キリストの生涯についても語ります。どのような人生を歩まれたのか…。使徒10：39～には「**私たちは、イエスがユダヤ人の地とエルサレムとで行なわれたすべてのことの証人です。人々はこの方を木にかけて殺しました。：40**しかし、**神はこのイエスを三日目によみがえらせ、現われさせてくださいました。**」と使徒たちはイエスの十字架と復活、そしてその歩みについて語って行きます。なぜでしょう？それはイエスが私たちににとっての完全な模範だからです。イエスがどのように生きられたかということは私たちが生きて行く上に非常に大切なのです。だから私たちはイエスがどのように生きられたのかを学ぶし、同時にその教えを学んで生きていた使徒たちのみことばを学んで行くのです。聖書を学び聖書を語って行くのです。私たちが手にしているこの聖書だけが神が私たちにくださったものです。だから、このすばらしいみことばを人々に語って行くのです。それ以外のものは人間の話、人間の知恵です。それが人を救うことはできません。私たちクリスチャンが目覚めなければいけないことは、私たちが語るべきメッセージはこの神のおことばであるということです。

(3) このメッセージをいつ語るのか？

パウロが私たちに教えてくれました。「**みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。**」(Ⅱテモテ4：2)。あらゆる機会を用いてこのすばらしいメッセージを語りなさいと言うのです。いつでもどこでも語って行くのです。かつて、ユダヤ人たちはサマリヤを避けていました。サマリヤを通して旅行はしなかったのです。しかし、教会が誕生したとき神はどのようなことを命じられたのでしょうか？使徒1：8のみことばを思い出してください。「**しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。**」、例外はないのです。そして、実はこの1：8の約束は「使徒の働き」を見ると見事に成就されています。1－7章はエルサレムでの話です。8章ではステパノという人物が殉教して行きます。9章ではパウロが救われます。10章ではペテロが地中海に面したカイザリヤに行き、そこでローマ人たちに伝道します。その中で救われたのがコルネリオです。11章から最後の28章まで、地の果てにまでこの福音が広がって行くことを私たちは見ることができます。シリアの中央にあったアンテオケから始まります。そこでギリシヤ人たちに福音が語られます。そして、その後神はパウロたちを地の果てにまで導いて行かれるのです。エルサレムで始まった伝道はステパノが殺されるという殉教を通して外へ出て行き、ユダヤとサマリヤの全土に、そこから地の果てにまで出て行った様子を、私たちは「使徒の働き」の中に見るのです。まさに神が言われたように実現して行くのです。世界宣教が始まったのです。彼らはメッセージをもって神が行きなさいと言われるどこにでも出かけてそのメッセージを語ったのです。こうして、福音は私たちのところにも届いたのです。だれかが出て行って語った、そして主のみわざがなされ、そしてまた、それを人々が伝えて行ったのです。キリストの証人たちがそのわざを為したのです。その結果、私たちにもこの福音が届いたのです。

イエスを信じた者はキリストの証人であることは分かった、語るべきメッセージが何なのか、いつどこで語るのかも分かった、でも、私には向いていない、私には無理です、私が出て行って人々にイエスの話をするなんてちょっと私にはできません、とこのように言われる方がいるのも事実です。悲しいことです。皆さん、もしそう思っておられるなら聞いてください。私たちは考えなければいけません。私たちはなぜこのメッセージを語る必要があるのかです。その理由は、

(a)それが私たちの生きている目的だからです。私たちはキリストの証をするために今日生かされているのです。このことを私たちはしっかり覚えるべきなのです。私たちはもう証し人なのです。するかしないかの選択ではないのです。私たちは証するために証し人とされたのです。私たちが考えなければいけないことは、それをどのようにして行くかです。どのようにすればもっと多くの人々にこのすばらしいメッセージを伝えて行けるのかです。パウロはそのことがよく分かっていました。だからこのように言います。Ⅰコリント9：16「**というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならぬことだからです。**」と。私たちはこのように福音宣教のことを思っているのでしょうか？「**私がどうしても、しなければならぬことだから**」と…。私たちは、そのような機会が与えられたらとか、そんなチャンスがあったらとか言いますが、パウロはそう言いませんでした。「**もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわいに会います。：17**もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。」。パウロは分か

っていたのです。なぜ私は出て行っていたところで、どんなときにも福音を語るのか、それは私が生かされている目的だから、そのために私は今日生かされている、だから私はどんなことをしても神から委ねられた務め、責任を果たして行きたいと言います。

使徒5：32でも1：8でも「証人」ということばを見てきましたが、このことばを「使徒の働き」だけで見ると、名詞、動詞の両方を合わせて29回も出てきます。証人とは、私たちの見たこと、経験したことを人に話すとか、辞書によると真実を証明する人とあります。しかし、この「証人」ということばのギリシャ語から英語の「殺人」「殺害」ということばが生まれているのです。それが語源になっているのです。どうして？と思われませんか？このキリストの証人たちは、イエス・キリストの十字架、イエス・キリストの復活、この救いのメッセージが真実であることを確信していました。だから、彼らはいのちがけで語ったのです。キリスト教の歴史は殉教の歴史でもあります。人々はなぜいのちがけだったのでしょうか？それは彼らが確信していたからです。この救いこそ真実であること、このイエス・キリストこそ真の神であること、このイエス・キリストによってのみ永遠の赦しを与えられることを確信していたのです。だから彼らはいのちがけでそのメッセージを語っていったのです。そこでいのちがけで語ったこの証人たち、そのことばが殺人や殺害という英語の語源となったのです。ステパノはいのちをかけてキリストを証しました。使徒の12章を見るとヨハネの兄弟ヤコブは使徒たちの中で最初の殉教者です。使徒5：32を見ると使徒たちが大胆にキリストを証したことが分かります。4：19には「**ペテロとヨハネは彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してください。：20 私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」**」とあります。どんなに脅されても、イエス・キリストのことを語るなどと言われても、彼らは「私たちは見たのです！私たちは知っているのです！このイエス・キリストこそがほんとうの神であり、本当の救い主であることを確信している！だから語らないわけにはいかない！」と、彼らはメッセージを語り続けたのです。使徒20章にはパウロ自身の証があります。20：24で「**けれども、私が自分の走べき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」**」と言っています。

私たちが生かされている目的、それがこの福音を伝えるということです。同時に、

(b)それが神のみこころだからです。福音のメッセージを伝えることは神のみこころなのです。マタイ28章を見てください。11人の弟子たちがガリラヤに行ってイエスの指示された山に登ったと記されています。そして、19節～「**：19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、：20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」**」とイエスが大命令を与えたのですが、その前の18節に「**イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。」**」とイエスが言われたことが記されています。なぜこのようなことを言われたのでしょうか？なぜイエスのご自分の「権威」について話されたのでしょうか？イエスはここで自分にどのような権威が与えられているのか、自分がすべてのものを治めていること、天においても地においても自分に勝る存在はいないこと、それを明らかにされたのです。確かにイエスが地上におられたとき、そのみ力を示されました。病を癒すことによって病気に勝る力をもっていること、死人を生き返らせることによってイエスは死に勝る力をもっていることを明らかにされました。また、サタンや悪霊を追い出すことによってそれらに勝る力をもっていること、嵐を静めることによって自然界に勝る力をもっていること、そして、罪人を赦すことによってご自身が神であることを明らかにされたのです。イエス・キリストはこの大命令を与える前に、ご自分の権威について話された、つまり、この大命令は唯一真の神からあなた個人に与えられた命令なのです。教会に与えられたのではない、イエスを信じたあなた個人に神が個人的に与えた命令です。「出て行ってメッセージを伝えよ」という命令なのです。弟子をつくるのが神からあなたに与えられた命令なのです。だから、私たちはそれをするのです。神から直接的に、個人的に与えられた命令がここにあるのです。私たちがそれをしなければ、当然、私たちは神に逆らっていることになります。

生かされている目的はこのメッセージを語るためであり、このメッセージを語るこそ神のみこころなのです。クリスチャンは神に従うことを決心したはずです。ゆえに、私たちはこの命令に従うのです。そのことをしっかり覚えていなければなりません。なぜなら、私たちが出て行ってメッセージを語ることを快く思わない人々が存在するから、神に反対するものは皆そうです。サタンも悪霊たちもあなたが出て行って福音を語ることを望んでいない、だから、いろいろな方法をもってあなたの心を挫こうとするのです。そして、私たちはもうその被害者です。いろいろな状況の中で心が萎えるような経験をしてきました。一生懸命語っても人々は聞いてくれない、心を開いてくれない、なかなか人は救われない、いつの間にかもういいのではないか、いくら語っても何も起こらない、もしそのように思っている

なら、もう一度この箇所を見なければいけません。なぜ神は今日を私にくださったのか、何のために今日私が生かされているのかです。そして、神のみこころは何なのかです。神は語るべきメッセージを語りなさいと言われます。それをするかどうかは私たちが個人的に決めなければいけないのです。神が言われていることはもう明らかなのです。神の命令に従って従順に歩いて行くのか、それとも神の命令に逆らって不従順な生き方をするのか…。ここまで来るともう心が痛くなってきた、何か自分が責められているようで…と、神は不思議な方法で私たちの心に働きます。もう何十年も前のことですが、ある人がこのようなことを言ったのを私は今でも忘れることができません。それは「あなたがイエス・キリストの福音を最後に語ったのはいつですか？」と。ドキッとしました。個人的にこのイエス・キリストの救いをだれかに話したのは、いったいいつが最後だったのか…。あなたはどうですか？

神に喜ばれる歩みをして行くためには、私たちの責任を覚えなければならない、そして、二つ目に

2. 責任を果たすための秘訣を知る

どうすればその責任を果たせるのか、それが分からないと神のおことばが負担、重荷になって来ます。皆言います、やろうと頑張ったけれど無理だったと…。だれも聞いてくれなかった、私は口下手でメッセージなど語れない、だから、その面で訓練された人にやってもらった方が良いと。でも神はそのように言うておられません。どうすればそれができるのか、私たちはその秘訣を見なければいけません。使徒5：32「…神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」と、確かに、聖霊が与えられたことを通してキリストは真の神であることが明らかにされたことを前回見ました。「神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊」とありますが、なぜ神はイエスを信じる私たちに聖霊をくださったのでしょうか？目的、理由があるのです。確かに聖書を見たとき、聖霊なる神の働きというのは私たちの信仰を強めることです。エペソ3：16に「どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。」とあり、聖霊なる神は私たちの信仰を強めてくださるのです。二つ目に、罪に対する勝利を与えてくれます。ガラテヤ5：16「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」、聖霊の力によって私たちはこのような誘惑に打ち勝つことができると教えてくれます。三つ目に、聖霊なる神はメッセージに力を与えるのです。パウロはIコリント2：4で「そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。」と書いています。賢い知恵を用いて福音を伝えたのではないのです。神の力によってメッセージを語る、だから、神のみわざが為されるのです。そして四つ目に、聖霊ご自身がメッセージを語るのです。マタイ10：18-20でイエスはこのように言われました。「また、あなたがたは、わたしのゆえに、総督たちや王たちの前に連れて行かれます。それは、彼らと異邦人たちにあかしをするためです。：19 人々があなたがたを引き渡したとき、どのように話そうか、何を話そうかと心配するには及びません。話すべきことは、そのとき示されるからです。：20 というのは、話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話されるあなたがたの父の御霊だからです。」と、神はいろいろな所に私たちを遣わしてください、どのように話せばいいのかわからないときでも、聖霊なる神は私たちを通して語ってください、そのような働きをするのです。このような聖霊を神は私たち信者に与えてくださったのです。使徒4章でペテロとヨハネは律法学者や祭司長や長老たちに大胆にみことばを語りました。そのときに、律法学者や祭司長や長老たちはそのことを見て驚くのです。「彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人であるのを知って驚いたが、ふたりがイエスとともにいたのだ、ということがわかって来た。」(使徒4：13)。ペテロもヨハネもふつうの人でした。学歴も教養もない、神学校で訓練を受けたわけでもない、ふつうの人でした。では、どうして彼らはエルサレム中に、そして、世界に影響を与えるようなことができたのでしょうか？それは、神が彼らを用いたからです。神が彼らを通して働かれたのです。そこにカギがあるのです。私たちには力も知恵もありません。私たちは人を救うこともできない、私たちにできることは神のおことばを真実に正しく伝えて行くことです。そして、聖霊なる神がそのメッセージを使って人々の内に働かれるのです。

私たちの責任はこのみことばを語ることです。神の助けがいることは分かりました。そして、私たちがもし、もう疲れた、できないと思っているのなら、神の力によって歩んでいるのではなくて、自分の力や知恵によって歩んでいることを忘れてはいけません。自分の力でやろうとするなら絶対に行き詰まります。挫折します。私たちは不完全なのです。私たちの力も知恵も…。

では、聖霊なる神の助けをいただきながら歩いて行くことができるための秘訣はどこにあるのでしょうか？神の助けをいただきながら歩いて行くなら神のみわざを為すことを神はよしとしてくださるからです。そのために私たちが覚えることは、

(1) 私たち自身、罪から離なれること

罪をもったまま神のみわざがなされることを期待してもだめです。聖霊を悲しませてはならない、エペソ4：30「神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押

されているのです。」

(2) 正しく生きて行くこと

キリスト者に相応しい生き方を継続して行くことです。イエスは山上の説教、マタイ5：10-16で「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。：11 わたしのために、のしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。：12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいからだ。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。：13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。：14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。：15 また、あかりをつけて、それを拵の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。：16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」と言われました。私たちは確かに地の塩、世の光です。私たちがキリストにあって敬虔に生きようとするなら迫害を受けて行きます。しかし、神が私たちに言われることは、罪から離れることだけでなく、今度はキリスト者として相応しい正しい良い行ないを継続して行くのです。そのことによってイエスを知らない人々に証が為されて行くのです。

(3) 聖霊に支配していただくこと

エペソ5：18は現在形であり受身です。「また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。」と、私たちは常に神によって満たされ続けて行くことが必要なのです。神の助けをいつもいただき続けることが必要なのです。

このように私たちが歩んで行くなら、聖霊が私たちを助けてくださり、私たちを通して神のみわざが為されて行くのです。そのときに、私たちはこんな私を救ってくださった神にふさわしい感謝を現わすことができるのです。なぜなら、私たちがそのように生きるなら、私たちはこのキリストのすばらしさを一人でも多くの人に知ってもらいたいと思って語るからです。

イエスはヨハネの福音書20：21で「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」と言われました。あなたは世に遣わされたのです。あなたは神が世に遣わしてくださったのです。何のためにか、私たちはもうそのことを学んできました。問題はそれを実践するかどうかです。出て行って、神の助けによってみことばを語り続けて行くかどうかです。それが神のみこころであり神が望んでおられることです。そのように生きて行くなら、決して人生は無駄ではない、その選択をするのは私たちです。

どのように私たちは私たちの感謝を神に現わして行くのでしょうか？何をもって感謝を現わせばいいのでしょうか？このような生き方が神への感謝を現わします。そのように生きて行きましょう。こんなすばらしい神を証できるという特権をいただいた私たち、それを神の助けによって大胆に語って行きましょう。なぜなら、私たちは一人でも多くの人々が救われてほしいからです。また、それは神ご自身が望んでおられることだからです。